

## 令和七年度 入学式式辞

爛漫と咲き誇っていた桜が散らした花びらの後に、若々しい葉を芽吹かせ、山々も新緑の生気に満ち溢れています。すべての命が輝く今日の佳き日に、三豊市長 様、PTA会長 様、そして多くの保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに令和七年度 香川県立笠田高等学校 入学式を挙行できますことは、私ども教職員一同にとりまして、この上ない慶びであり、心より感謝申し上げます。

ただいま、入学を許可しました八十五名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。在校生、教職員一同、心より歓迎いたします。

本校は、昭和三年に香川県立三豊農業学校として設立され、昭和二十四年に香川県立笠田高等学校と改称され、今年で九十八年、令和十年度には創立百周年を迎えます。農業と家庭に関するスペシャリストを養成する専門高校として、本校を卒業された多くの先輩たちは各方面ですばらしい活躍をされています。

晴れてこの伝統ある笠田高校の生徒となった皆さんに、高校生活のスタートにあたり、初代校長の中馬 成介 先生のお言葉をかりながら、私が期待する三つのことについてお話しします。

中馬先生は鹿児島県のご出身で、新しく三豊の地に地域の期待に応じて創立された三豊農業学校の校長として着任されました。立派な専門教育を行うことはもちろんであるけれども、調和のとれた人間性を高めていく教育を大切にされました。本校の五つの校訓「至誠 慈愛 勤労 剛健 自律」の中でも、特に「至誠」が大本であると語られています。

かの幕末の思想家であり、教育者である「吉田 松陰」も「至誠にして 動かざる者は いまだこれあらざるなり」と述べています。これは、「心からの誠意を尽くせば、必ず相手の心を動かすことができる」という意味です。皆さんがこれから的高校生活を送る中で、勉強や部活動、学校行事等さまざまなことに挑戦する機会があるでしょう。その時に大切なのは、自分自身に誠実であること、仲間に対してまごころをもって接すること、そして何事にも全力で取り組むことです。たとえ、困難に直面したとしても、誠意をもって努力を続けることで道は必ず開かれます。これが一つ目です。

二つ目は、学びを楽しむ気持ちを大切にすることです。高校での学びは決して教科書の知識を詰め込むことだけではありません。実習を通じ技術力を高めるために何度も地道な練習を繰り返すことも必要です。その中で、新しい発見をし、考え、仲間と意見を交わしながら自分の世界を広げていくことが「学ぶ」ことの本質です。「なぜだろう?」「もっと知りたい」という好奇心を持ち続けることで、学びはより深く、面白いものになります。失敗を恐れず、挑戦し、学ぶことの喜びを味わいながら、自らの可能性を広げていってください。

笠田高校での学びは、命を尊び、暮らしを支える大切な勉強です。笠高生としての誇りと自信を持ってください。

三つめは、学校があなたのために何をしてくれるかを問うのではなく、あなたが学校や社会のために何をすべきなのか、何ができるのかを自ら問い、実践することです。このことが九十八年の笠田高校の歴史と伝統を継承し、発展させることに繋がっていくと考えています。

最後に、本日ご列席の保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。心より、お祝いを申し上げます。生徒たちはこれからの日本を、また、郷土香川を担っていく大切な人材としてたくましく成長していかなければなりません。そのために、家庭と学校が心をつなげて生徒を見守っていく必要があると考えます。

私ども教職員一同、精いっぱい頑張りますので、本校の教育活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

新入生の皆さんが、今日の感激を胸に、心身ともに健康で、明るく元気に学校生活が送れるとともに、本日ご臨席のご来賓ならびに保護者の皆さま方の益々のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、式辞いたします。

令和七年四月八日

香川県立笠田高等学校校長 山田 知子